



ミュージアムで観察されたカミキリムシ

- a. ヒメヒゲナガカミキリ, b. アトモンサビカミキリ, c. ヨツスジハナカミキリ, d. ツヤケシハナカミキリ, e. ヒトオビアラゲカミキリ, f. シラホシカミキリ, g. ヨツスジトラカミキリ

子供にとっても人気のある昆虫といえば、まずカブトムシ、クワガタムシを思い浮かべますが、カミキリムシもなかなかの人気ものではないでしょうか。会報56号でお知らせしたとおりミュージアムの敷地内ではたくさんの昆虫が観察でき、カミキリムシの仲間も4月中旬から9月にかけて様々な種類が見られます。

上の写真は、ほとんどが建物の壁で見つかったカミキリムシの仲間の写真です。これまでに見られたカミキリムシの仲間は、撮影できなかったゴマダラカミキリやベニカミキリ、ホシベニカミキリなどを含めると11種類です。多くは、壁に張り付いているところを見つけただけなので、積極的に探せばこれ以上の種類が見つかると思います。

観察されたカミキリムシのほとんどは壁についていたものですが、キクスイカミキリ(右下写真)は、自然観察路入口付近のヨモギで見つけたものです。キクスイカミキリは、1cm程の小さなカミキリムシで、キク科植物を加害することで知られています。キクスイカミキリに加害されたキク科植物は、茎の上の方がしおれて、垂れ下がった状態になります。これは、成虫が卵を産むため茎に傷をつけたためで、その後、茎の中で孵化した幼虫は茎を下方に食べ進みながら成長し、株元で秋に新成虫となり、茎の中で越冬するそうです。キクスイカミキリは決して珍しいものではありませんが、このように、ほとんどキク科植物の中で生活するために4月下旬から6月中旬の産卵期にしか成虫を見ることができません。

昨年は観察できたキクスイカミキリですが、今年はヨモギが春先に刈り取られてしまったため、残念なことにまったく見ることができませんでした。



ヨモギの葉の中にいたキクスイカミキリ